

1. 単元について

低学年のボールゲームは、簡単なボール操作やボールを持たないときの動きによって、攻めたり守ったりしながら勝敗を競い合うゲームである。簡単な規則で楽しくゲームができるようにするために、守りのいるゾーンを決め、攻め側より守り側の人数を少なくしたゲームを行う。

本単元は、守りゾーンの守りに邪魔されずにパスをつないでゴールまで運ぶゲームであり、中学年以降のゴール型ゲームに発展していくゲームである。

単元を通して、ねらったところにボールを投げたり、転がしたりすることや、ボールが転がってくるコースに入ってボールを捕ったり、止めたりして易しいゲームを楽しく行う中で、以下に重点を置いて指導と評価を行う。

2. 研究の内容

視点1 児童が自ら思考を深め、目標達成する姿を明らかにした教材化と単元構成

本単元では、「ボールをゴールまで運んでシュートをしよう」というテーマで学習を進める。

どの児童もゲームの楽しさや特性に触れながら運動できるようにするとともに、一人一人が思考を深め、課題を解決できるように教材化や単元構成の工夫を行う。

本学級のボールゲームに関する事前の実態調査では、90%の児童が「ボール遊びは好き」と回答している。その一方で、「あまり好きではない」と回答した児童も数名いた。前時のボールゲームでも、ボールを投げたり捕ったりする経験が少ない児童や向かってくるボールを捕ることに恐怖心をもっている児童の様子が見られた。これらの実態と中学年以降の学習を見据えて、パスをつないでボールを運ぶとともに、守りゾーンを通す時は、転がしてパスをする規則とした。ボールを捕る技能への抵抗感を軽減することで、一人一人がゲームを通して考えたことを実現しやすくする。

また、攻める人数を2人にし、どの児童もボールに触れる機会を多くできるようにした。2人でゴールまでボールを運ぶために、どうやって守りゾーンでパスを通すのかを単元の中心的な課題とし、守りゾーンを突破したら大きな的にシュートをするゲームを行う。

単元構成としては、単元前半でボール保持者の動きに焦点化し、課題を解決していく。単元後半には、ボールを持たない人の動きにも着目できるようにし、守りゾーンでボールを通し、ゴールまで運ぶための方法を工夫できるようにする。

視点2 児童が自ら課題を見付け、学び続けるための指導方法や評価方法

本時で児童が課題を見付けることができるように、次の手立てを講じる。1つ目は、前時のゲームの映像提示である。コート幅が狭くなることでボールを通すことができなくなった状況に、目を向けるきっかけとする。2つ目は、点数の比較である。コートが狭くなったことで、守りゾーンを通った点数は低くなっている。これらの状況から「狭いコートで守りゾーンを通すには？」という課題を引き出していく。

本時で目指す姿は、コートが狭くなったゲームでも、ボールを守りゾーンから通すための動きを工夫していくことである。一人一人が解決の見通しがもてるように、ゲームを通して考えをもつ場（ゲーム①）を設定する。「守りゾーンを通したい」という願いのもと、動きの工夫を見付けられるようにする。

全体交流では、「ボールを守りゾーンから通すために何に注目したのか。」を問う。児童はボール保持者の動きだけではなく、ボールを持たない人の動きにも着目すると考える。一人一人の児童が学習シートにどこに注目したのか印を付けることで、考えを表現する場を保証する。また、板書のコート図に児童の考えを位置付け、友達の考えたことの価値に触れられるような場面を設定することで、思考を深めていけるようにする。

その後、もう一度ゲームを行う場を設定し（ゲーム②）工夫したことを試す時間とする。

学習の振り返りでは、学習カードに工夫したことを追記することで、ボールを通すために工夫したことを改めて表現し、実感できるようにするとともに、評価へと生かしていく。

3. 本時の展開（4／6）

本時の目標

- (1) 攻めと守りのある易しいゲームをすることができるようにする。【知識及び技能】
- (2) ボールを運ぶための工夫について考えたことを友達に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) ボールゲームに進んで取り組むことができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

学習活動と児童の姿

教師の手立て

コート幅が狭くなったことで、これまでのゲームよりも空いている場所が少なくなり、ボールを友達に渡すまでに時間がかかったり、守りにボールを捕られたりすることが増えていることに気が付いている。

○準備活動

○課題を見付ける活動

守りゾーンが狭いからすぐに守りが来るよ。

転がせる場所が少なくなったからだよ。

ボールをもらいたいのにももらえないよ。

狭いコートでも守りゾーンを通すにはどうしたらいいのかな？

○課題を追究する活動（ゲーム①）

- ・守りゾーンからボールを運ぶための工夫について考えてゲームをする。

ボールを持っている時は空いている場所に転がしたよ。同じようにしたけど、守りがすぐに追いつかれた。他に方法はないかな。

今までは空いている場所に転がってきたけど、守りが増えて空いている場所が見付けにくいよ。どうしたらいいかな。

○全体交流

ボールをパスする人

今まで使っていたフェイントは使えたよ。

今までより転がすスピードを速くするよ。

ボールを渡す友達の受け取る準備ができたよ。

手や声で合図をするよ。

ボールを渡す友達とつながりそうな時を見逃さずにパスするよ。

ボールをもらう人

友達から速いボールが転がってくるから捕れるように準備するよ。

すぐにボールが来るからボールと友達をよく見るよ。

パスする友達と動きを合わせる

守りのいない場所にすぐに動いてボールをもらうよ。

【課題を見いだすための手立て】

- 広いコートと狭いコートでの得点を提示する。
- 前時のゲームの様子からコート幅が狭くなり、守りに邪魔されてボールを通すことができない場面を提示する。

- 一人一人が解決の見通しをもてるように、ゲームで試し、個の考えをもてるようにする。

- 何に注目したのか板書のコート図に印を付けることで、個々の考えの違いを明らかにしていく。

- コート図で交流したことを実際のコートを使って確認し、全体に共有できるようにする。

【思・判・表】

ボールを転がすことやボールが転がってくるコースに入ることにについて考えた工夫を、絵図や言葉で友達に伝えている。

〈評価方法〉

(行動観察・学習カード)
ゲームの後に自分の試した動きを友達に伝える姿や、学習カードに追記した内容から見取る。

○課題を追究する活動（ゲーム②）

- ・交流した工夫を繰り返し試しながらゲームをする。

友達の受け取る準備ができたらずきに投げるよ。上手くいったから友達にも伝えよう。

ボールをよく見て準備したらできそう。もう一回試してみよう。

守りのいない場所にすぐ動いたけど、上手くいかなかった。もう一回試してみよう。

○考えを振り返り追記する場

友達のおかげで新しい工夫が見付かったよ。フェイント作戦がいいよ。

いろんな工夫を試したよ。一番上手くいったのは、よく見る作戦だよ。

○整理運動